

地球に遊ぶ

父子で夢を繋いだ1400km。
北米最大のオフロード BAJA1000に挑む。



出場マシンWR450と晋之介。



1968年の第2回大会以来、来年が何と50回目の開催となるBAJA1000。バハ・カリフォルニア半島を舞台に繰り広げる北米大陸最大のオフロードレースである。今回はその49回目。記念すべき50回大会を前に、ハリウッド映画の監督デヴィン・ブラウン氏から、「Dust to Glory」の二作目を作るから、親子で（これが先方のリクエスト）映画の出演を兼ねてレースに出ないか？という熱いお誘いを受け、今年もまたBAJA1000（11月18～19日）に出場した。

ご存知の通り、D・ブラウン氏は、僕たちの

誰もが知っている、あの「栄光のライダー」(ON ANY SUNDAY: 1966年・ステイプ・マックタイン)や、サーフィン映画の金字塔とされる「エンドレス・サマー」を撮った名監督、ブルース・ブラウン氏の息子。

2006年に二作目の「Dust to Glory」(ドキュメンタリー)を作り、今回が二作目となる。今回の854マイルのコース上には地上カメラ60台、上空の3台のヘリコプターの一部始終を空撮する。

この映画の中、僕たちは親子は監督自らの、BAJAのレースに関する質問や、BAJAの自然、BAJAに親子で参戦する気分などについてインタビューを受けたが、レースの実走シーンと共に、映画ではどこまで採用されるかは分からないが、来春以降の映画の公開(全世界)が楽しみ。

ものすごく長く過酷だった難コース。

さて、今年のコースは、隔年実施の最南の町「ラス」まで行くコースではなく、半島の上部を回るいわゆる「8」の字コース。

総延長1366.4kmの超過酷な「海・山・川」の難コースである。狭い山道、海岸の玉砂利のフープス、底なし沼のようなSILT(沈泥)、石ゴロと砂の川底を這い回り、登り・下りの激しい山岳地帯を何度も繰り返し、思わず「もうやめてくれよ」と、叫びたくなるほどの、長く辛い試練のオフロード。

今回のエントリー中、何んと、自分がまさかの最年長者？「なんだ、60代、70代は居ないのかよ、腰抜け！」と、当初は鼻息も荒かったのだが、実際のコースに出てみると表情も一変、とにかく辛い。「この歳で、何でこんな試練に？」と、しみじみとレースの厳しさを感じ知ったのでした。

BAJAも50年。コースレイアウトも重複し、結果、度重なる頻度によって、轍は深まり、岩や石は露呈し、シルトは拡大するなどコースの難易度は増し、昔の様に気持のいい荒野を突っ走るBAJAとは程遠い、今は「試練」のBAJA。かくして、僕たちが親子がどの様にレー

スを終えたか？ 息子・風間晋之介(31歳 MXXA級)のレポート。

「父の奮闘に大奮起！ 死に物狂いで走った520km」

レース当日(18日)である。AM5時30分スタートの父を見送り、その後、早めのライダー交代。沿道の声援が力になった。応援に応えること更に向うの観衆も応えてくれて、最高の走りが出た。

が、155マイル地点で不覚にも大転倒をやらかし、左右の肋骨を折ってしまった。他チームの人や観客など皆に助けってもらい、15マイル先の交代ポイントに何とかたどり着き、父にバトンを渡す。

(ここから、父の僕が海辺の90マイルを受け持つ)

その後、260マイル地点から再びバトンを受け、次の415マイル地点を目指す。胸の痛みでペースも上らず、ついに星の輝く夜間走行に。闇の中、何度も転倒。夜の21時になってようやく父にバトンを渡す。本来は、その先も自分が走ってしまおうと思っていたが、昼間の大転倒と夜間の三度に渡る転倒で気持ちが萎える。

そこからは次の520マイル地点に移動。仮眠を取り父の到着を待ったが、気がつけば



夜の9時、父にバトンを渡す。

「お知らせとお願い」

風間親子はこの12月25日、ダカールラリーに参戦いたします。是非とも Spirits of Kazama Road To Dakar2017 を応援ください。また、遠征に対する支援も以下にお願いします↓

<https://readyfor.jp/projects/spirit-of-kazama>



一気に520kmを走り終えて11位完走。

時刻は朝の5時。未だに到着しない父を不安に思う。膝の曲がらない父には困難な夜道かも知れない…。交代してからすでに8時間。自分の親不孝を省みた。朝の7時。眩しいヘッドライトの光と、聞き慣れたWR450のサウンドと共に、父は交代ポイントに現れた。不自由な足と66歳という歳で本当によくここまでたどり着いたものだ。いつだって信じてたヒーローだった父は、やっぱりヒーローだった。

この奮闘に僕も奮起しない訳がなく、ハチャメチャ気合が入った。胸の痛み止めも効き、この先のゴールまでの334マイル(520km)をタイムリミットぎりぎりまで、一気に交代なしで攻め続けた。胸部の痛み、疲労で熱くなる身体の各部と戦いながら、必死に走り続け、そして…。

前方の視界にゴールのエンセナーダの町が見えた時には、涙が止まらなかった。最後のストリート走り抜け、最終コーナーには大観衆が待ち受けていた。歓声と拍手に迎えられ、僕はウイリーでそれに応えてゴールした。

プロフィール

1980年のキリマンジャロ・バイク登攀を皮切りに、82年パリ・ダカ日本人初参戦、総合18位。84、85年世界最高峰エベレストに挑み高度6005mの世界高度記録。87年北極点到達。同年ファラオラリー-250クラス優勝。88年アコンカグア峰にバイク登攀、高度6750m。92年南極点到達など、数々の冒険の傍らNPO地球元気村の活動。08年よりWHO運動器の10年国際親善大使就任。

* NPO 法人「地球元気村」代表
<http://www.chikyu-genkimura.com/>



冒険家
風間深志



(左)写真はWeb Dirt Riderより (右)Dust to Gloryのインタビュー風景。手前がデヴィン・ブラウン監督。

